

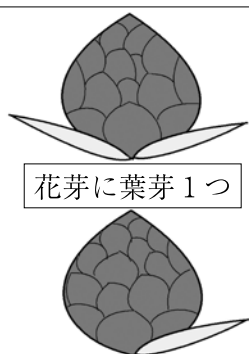
しまなみ農業だより モモとカキの 剪定のお話し 〈続き〉

先月号では肝心の図の説明が抜けておりましたので、続きで説明いたします。本文は先月号を参考にいただければ幸いです。

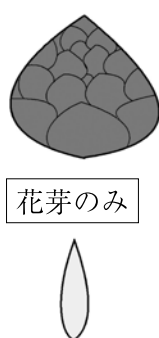
要は樹種によって花の原器のみか葉の原器も持つか（純正花芽と混合花芽）と、花が枝梢の先端に着くかもっと下位に着くか（頂生・頂腋生・腋生花芽）とが決まっており、剪定とは不要な花芽を除き新梢の発生を促すということです。花芽、葉芽の両方に気をつけながら行わねばならないということです。例に挙げたカキはどんなに剪定しても発芽する代わりに花芽を切り飛ばしてしまいうすいため花芽に注意し、モモの場合は逆に必要な所に枝が無くすることがあるので、特に葉芽に注意して剪定を行う必要があります。これらのことからみると、カンキツの剪定はずっと簡単だ、と思われるかも知れませんが、実際そのとおりだと私は思います。

いろいろなモモの花芽・葉芽

典型的な花芽・葉芽

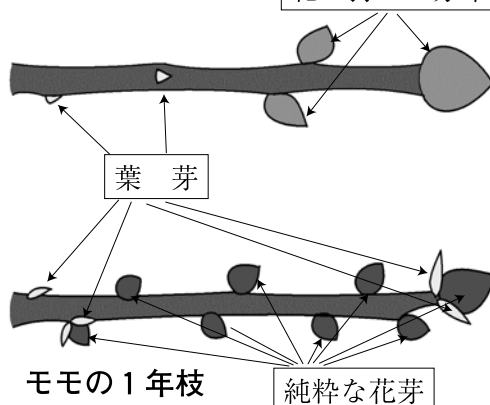


花芽のみ



カキの1年枝

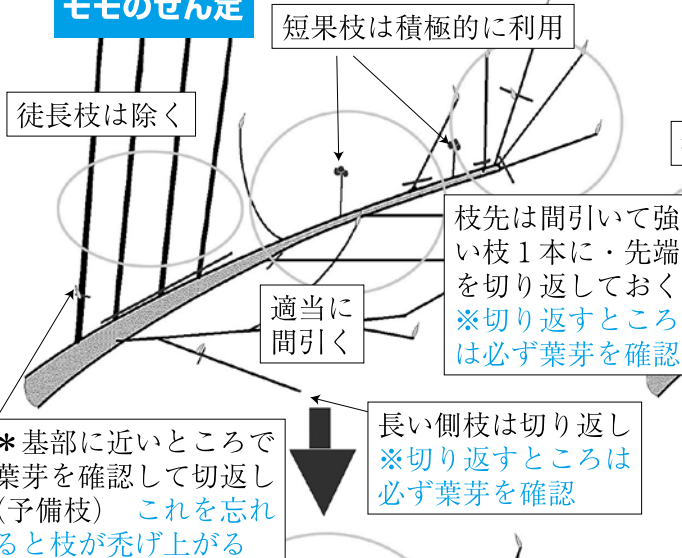
花を持った芽年枝



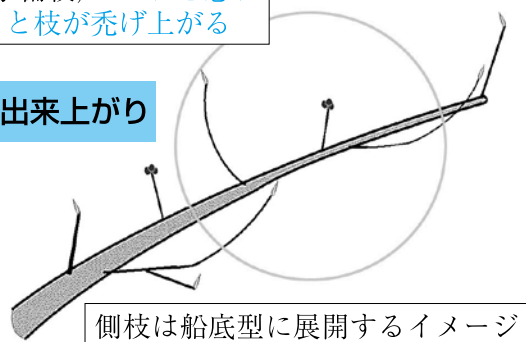
モモの1年枝

純粋な花芽

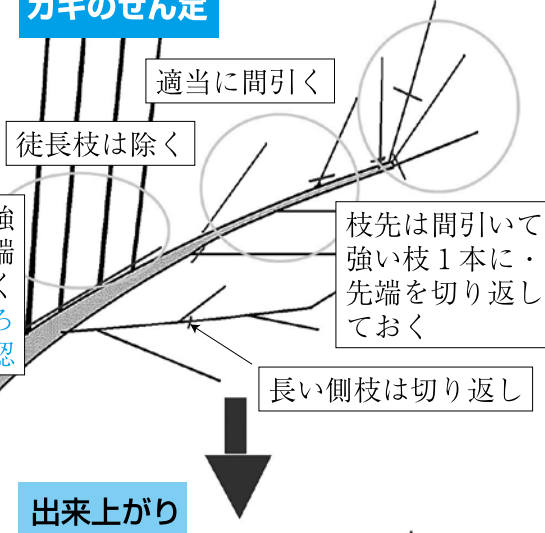
モモのせん定



出来上がり



カキのせん定



出来上がり

